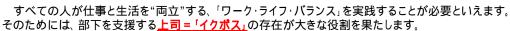


なぜ今"イクボス"が必要か

NPOW 7世小小小機轉安藤 哲也氏

ここ数年、男性の育児や家事への参加意識は高まってきています。 しかし、長時間労働の割合は30代・40代のお父さん世代が依然として 高い割合となっており、『イクメンの壁』となっています。



今号では、「イクボス」を提唱する、NPO法人ファザ-リングジャパン代表理事の安藤哲也氏にお話し を伺いました。

0:「イクボス」とはどのような上司

A:ワーク・ライフ・バランスを実践する部下を支援するだけではなく、部下を育て仕事のマネジメント が出来る上司。管理職として成果も出して、自分のプライベートも充実させる。「こんな上司に なり たい」と思える上司の元でこそ部下も育つはず。

0:なぜ「イクボス」は必要か

A:「イクボス」はもちろん必要だが、それ以上に「働き方を変えること」が大事だと考える。 共働き夫婦の育児は、女性の負担が大きくなる傾向が大きい。その要因に男性の長時間労働が ある。長時間労働は育児のみならず、介護に取り組む必要が生じた時、同じく厳しい状況に置か れてしまう。職場をすべての人が働きやすい場所にする、「働き方改革」が必要であろう。

0:子育て世代に エールを

A:自分一人で頑張らないでほしい。 育児も仕事もチームプレイ。 子育ては未来を育てているのと同じ 「社会貢献」である。誇りを持って子育てしてほしい。

夏休みはお手伝いデビュー!「親子の料理教室」

7月30日(土)に"夏休みはお手伝いデビュー!「親子の料理教室」"が開催されました。 この講座は、若い世代にワーク・ライフ・バランスの意識を持ってもらうことを目的として、 小学生と保護者の親子16組の方々が参加し、カレーピラフ等3品を作りました。

子どもたちの楽しそうな、そして上手な包丁さばきに、「家庭でも一緒にお手伝いしているのかな?」 と想像できました。

参加されたお父さんも日頃の成果を発揮し、楽しく料理をしていました。講師の厚木市食生活改善 推進団体厚味会の"手の洗い方"や"肉や野菜の扱い方"の指導もわかりやすく興味深い内容でした。



家族全員で自分ができる家事を担当し、助け合って楽し〈暮らすことが できると良いなぁ…と思いました。わいわいガヤガヤ楽しくお料理した後、 みんなで美味しくいただきました。

(取材:厚木市男女共同参画計画推進委員会 奥田)

【編集後記】

私たちはこれまで「男女共同参画」という聞き慣れない言葉をい かに伝えるかということを考えてきました。その意味を考えた時、導 き出される答えは、制度 や社会保障の充実だけでなく、男女がお 互いの"違い"を理解し、「ともに助け合う」という気持ちが必要とい うことでした。

今号では「ワーク・ライフ・バランス」について、ゲーム感覚で楽し 〈学んでもらおうと話し合いました。すごろ〈を進めてい〈中で、互い の違いを認め合うことの大切さに気づいていただければ幸いです。

平成29年2月発行

編集 厚木市男女共同参画計画推進委員 (奥田、柏木、門倉、小松、嶋、堀口、水島)

発行 厚木市市民協働推進部 市民協働推進課 厚木市中町3 17 17 厚木市役所 第2庁舎3階 男女共同参画だより No.137

私たちがめざす男女共同参画社会とは、男女がお互いを尊重 し、多様な生き方を選択することが可能で、家庭、地域、職場 などにおいて一人一人がいきいきと暮らせる社会です。





子育て支援センター:通称「もみじの手」 アミューあつぎ8階 0歳~6歳(小学校就学前)の子どもと保護者が利用できます。

集)ワーク・ライフ・バランスすごろく

特集

あそんで学ぼう!ワーク・ライフ・バランスすごろく

スペシャルインタビュー: なぜ今 "イクボス"が必要か NPO法人ファザーリングジャパン代表理事 安藤哲也氏 講座レポート

夏休みはお手伝いデビュー!「親子の料理教室」